

# 学園だより

Vol.84

2008.10  
Nara Women's  
University



大学構内の紅葉(奈良女子大学メールマガジン-131-号より)

文学部の新しい試み —主体的な学びを重視するコース制の導入— 出田和久	1
教養広場	2
大和の文化資源を探る 寺岡伸悟 航空機観測キャンペーン TCに参加して 久慈 誠 米国留学を振り返って 芝崎 学	
寄稿 私のチャレンジ 鷺尾惟子・青山恭子・坂東範子	5
卒業生からの寄稿	8
時を超えて……………中司みずほ 青春時代……………小林(岡久)陽子	
佐保会だより	10
こんな本を出しました 三野博司・小磯深幸 佐藤宏明・中山 徹	11
新任部長・新任教員紹介	13
学生生活支援	14
合宿所の新築について 広部奨学金授与式について 授業料免除についてのお知らせ 平成20年度就職活動支援行事カレンダー(後期分) 第46回近畿地区 国立大学体育大会結果について 学生相談室から	

# 文学部の新しい試み

—主体的な学びを重視するコース制の導入—

出田 和久

奈良女子大学  
文学部長



KAZUHISA  
IIDE TA

本学文学部は、文学や言語だけではなく、人間の営為により生み出された文化、歴史、社会およびそれらが存在する空間も教育・研究の対象としており、この幅の広さはわが文学部の大きな特色と言えます。このことは、現代社会がますます複雑化し、世界は混沌の度を強めているようにも見えるなかで、文学部が現代社会と密接なかかわりを持ち、果たすべき役割が大きいことを示唆しています。

そこで文学部では、この特色を活かし、「現代社会が直面する複雑な諸課題の解決に貢献できる人材を養成する」という学部目的を達成するためには、その教育体制はいかにあるべきかを考えました。その結果、学部教育の細分化・専門分化のし過ぎを避け、総合的な教育研究体制のもとに教育研究のさらなる充実・発展を図ることを目指して、今春から専攻制に替わりコース制を導入しました。このコース制においては、学生がより主体的に幅広く学べるように履修の自由度を高めるよう配慮されています。学生は基本的に二年次において「人文社会科学」、「言語文化学科」、「人間科学科」の三学科からひとつの学

科を選択し、三年次にそのなかの履修コースを決定するという、段階的に専門を深化させていくようにカリキュラムを構成しています。この三つの学科では、互いに開かれた学際的交流の中で、个性的かつユニークな研究と教育を進め、人間・社会・文化への鋭い認識、国際的視野に立った多様な言語能力、そして人間性に対する豊かな感受性を持った人材の育成を目指しています。

## コース制のねらい

多くの授業科目は、コース限定ではなく、学科または学部全体に開かれています。どの学科・コースに進んでも、学生は各自の関心に応じた多様な学習が可能です。複雑化した現代社会に求められる広い視野を養いつつ、次第に自らのテーマを見つけ、専門性を深めてゆく——そのような学生ひとりひとりの主体的な学びを支えるための新しいカリキュラムのかたち、それがこの「コース制」です。一年次では、教養教育科目を中心として学習し、研究する態度・方法を身につける土台を形成することに重点をおきます。二年次では各自の

関心や問題意識に応じて所属する学科を決定し、ついで三年次に履修するコースを確定します。こうして広い基礎から始めて徐々に専門性を高めていき、四年次で卒業論文に取り組みます。早くからやりたいことが明確な人にも、関心が多岐にわたり焦点化に悩んでいる人にも柔軟に対応できるシステムとされています。

大学で獲得した知識や技能が直ぐに役立つことは多くはないかも知れませんが、どこかで新しい問題に直面した時に、主体的に「学ぶ」、「研究する」姿勢を身につけていれば、課題の発見と解決に役立つ知識や技能を獲得する道筋を容易に見つけることができます。現代のような環境変化の激しい時代にあっては、一度獲得した新しい知識や技術も直ぐに陳腐化してしまいますので、常にいつそこの新しさが求められ、主体的に「学び研究する」姿勢がより重要になってきます。この新しいコース制の下で学んだ学生の皆さんが、そのような主体的姿勢の重要さを示し、その力を存分に発揮してくれることと期待しています。

# 大和の文化資源を探る

寺岡 伸悟

文学部 准教授  
人文社会学科



SHINGO  
TERAOKA

先日、新聞社から北和、中和、南和という地域区分について質問を受けた。私が文学部へなら学プロジェクトの世話をおおせつかつているからのようだ。

この呼称は、大和の「和」を用いて、奈良県北部を北和、中部を中和、そして南部を南和と呼ぶところからくる。新聞社によると、とくに御所市(ごせし)周辺の南和意識が強いという。

昨年、その御所市のまちづくり団体と知り合う機会を得た。御所は十七世紀に奈良県中部の一大中心として栄えたところである。その頃の歴史を感じる町並みが今も残っており、「ごせまち」と呼ばれている。その団体はこの歴史的町並みを残しながら、町の活性化をはかろうとしている。そのなかで、彼らが着目したのが御所柿(ごせしよがき)という柿である。

御所柿は、今私たちが口にする甘柿の元祖とされる。十七世紀中ごろには、大和の名産として、全国に知られるようになっていた。江戸にも送られ、明治以降は天皇にも献上されている。

それは市販の柿よりもずっと上品で甘く、なめらかな舌触りは天然の羊羹と呼ぶ人もいるほどだ。しかし、栽培の難しさで収穫量の少なさから、結局、果樹園に多く植えられるようなことは

なかった。その結果、名前は聞くが、実物を見た人は少ないという「幻の柿」となっていた。まちづくりNPOは、この柿を御所市のシンボルとすべく、まずその所在確認調査を計画した。ここで、私達奈良女子大学に協力依頼が入ったのである。

御所市の広報誌で御所柿情報を募集した結果、NPOに届いたそれは70件をこえた。NPOのメンバー、そして本文学部の小川伸彦准教授、さらに本学の学生たちと一緒に調査を開始した。

一軒一軒の訪問・確認調査の結果、興味深いことがいくつも明らかになってきた。たとえば、御所柿の分布が、旧市街地や旧街道沿いに多いこと。農産物でありながら、こうした分布は、まさに御所柿がマチのシンボルであることを物語っているようだ。また昔ながらの柿の葉寿司の製法や道具などもみつかり、地域おこしの貴重な資源発掘となった。さらに、学生達が中心になって、御所柿の食べ比べイベントも行い、そこで選定された「甘い柿」からは、奈良県の農業技術員さんによって接木用の穂木がたくさん採集された。やがて御所の町に御所柿が増えていくのかもしれない。このとりくみが中南和の活性化に少しでも役立てば、と願う。

本学の奈良県出身者は、中和・南和、

さらに県東部の人が多いような印象をもつ。それぞれ、地域の活性化が真剣に求められる地域だ。こうした地域が活力を失えば、本学の県内受験者数にも悪い影響がでるのでは、と私は危惧している。

奈良県にある大学として、本当の足元である中和・南和にしっかり向き合っていかなければならない——と、これは何よりも、なら学プロジェクトを進める我が身への自戒である。



# 航空機観測キャン C<sup>4</sup>に参加して

久慈 誠

理学部 講師  
情報科学科 自然科学講座



MAKOTO  
KUJI

文部科学省大学教育の国際化推進プログラム(海外先進研究実践支援)の下、二〇〇七年五月から約10ヶ月の間、アメリカ航空宇宙局(NASA)ゴダードフライトセンタ(GSFC)に派遣される機会を得ました。今回の派遣の主要な目的は、地球環境衛星観測の検証キャンペーンT<sup>U</sup> (Tropical Composition, Cloud and Climate Coupling: 熱帯大気組成—雲—気候結合ミッション)への参加でした。このキャンペーンの趣旨は、地球観測衛星と同じ対象を航空機で同時観測することにより、地球観測データの品質を検証しようというものです。

私は数年前から日本の宇宙航空研究開発機構(JAXA)との共同研究を通じて、地球観測衛星による雲の研究を進めてきました。その研究成果を発表するために参加したリモートセンシングの国際学会において、今回の受け入れ先であるNASAのマイケル・キング博士とも度々お会いしていました。彼とは、雲のリモートセンシングについての意見を交換し、またNASAの航空機観測データを用いた共同研究を行ってきていました。ここで、雲は地球温

暖化予測において最も不確定性の大きい要素の一つであり、地球観測衛星による地球規模でのリモートセンシング観測が必要とされています。今回



離陸準備中の航空機ER-2。高度20kmから地球観測を行う。

NASAの世界最先端の観測データを用いて、熱帯圏界面付近(高度約13km付近)に存在する雲の特徴について調べることが共同研究の課題としました。この高度に存在する雲は基本的に地球を温暖化する方向に作用しますが、その程度は個々の雲の諸特徴量に依存するため、実測データに基づいて詳しく調べることが重要なのです。

航空機検証キャンペーンT<sup>C4</sup>は、中米コスタリカを基点に、二〇〇七年七月からの約一ヶ月間にわたって行われました。期間中、航空機三機による同期観測が行われ、延べ六〇〇人を超え

る参加者が全米の研究所や大学から集まりました。これだけの規模の観測キャンペーンを行うことのできる組織力に圧倒されたことは事実です。ただ、観測はすべてが順調という訳ではなく、私がデータ解析を担当することに成った航空機搭載センサーが期間途中で故障し、予備のセンサーとの交換を余儀なくされたのです。二つのセンサー間の感度の違いを補正するのに予想以上の時間が掛かりましたが、帰国一週間前に開催されたサイエンスチームミーティングで、解析結果を発表することができました。お互いの初期結果を持ち寄った会合でしたが、幸い、リモートセンシングデータの解析結果は、他の観測機で直接サンプリングされたものと整合性のあることが確認され、今後の共同研究に弾みがつくものとなりました。

今回、NASAに派遣されて感じたことは、一流の研究者ほど基本を大切にしているということです。このことを今後の研究・教育の糧にして行きたいと考えています。最後に今回の派遣の機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝します。

# 米国留学を振り返って

芝崎 学

生活環境学部 准教授 生活健康学講座



MANABU  
SHIBASAKI

私は平成十六年三月末から約一年間、文部科学省在外研究員として、米国テキサス州ダラスにあるテキサス大学のサウスウエスタンメディカルセンター・ダラス校に留学しました。実際には、大学と提携しているプレスビテリアン病院の研究所（EEM運動・環境医学研究所）で研究を行いました。ダラスには、本学に助手として就任する前に八ヶ月だけですが、ポスドクをして留学していたところで、再び同じ研究所に留学したことになります。ポスドクの時は、英語もほとんどしゃべれなかっただけでなく、十分な準備もせず留学をしたため、生活基盤を確保するために多くの時間を費やしました。そのときの反省をもとに、留学が決まっただけでなく、早い段階で生活が落ち着いてきたこと、アクティブで実りのある留学生活を送ることができました。

まず、研究に関しては、ポスドクで留学していたころから考えていた研究に取り組みました。ポツリ又ス毒素というコリン作動性神経の遮断薬を使用する実験で、皮膚血管を調節するアドレナリン作動性神経とコリン作動性神経から放出される神経伝達物質の相互作用に関する研究です。人間を対象とした研究に対してポツリ又ス毒素の使用許可を得ることはかなり難しいのですが、渡米までの準備期間中に、倫理委員会へ実験の許可依頼の申請をし、許可を得ていたため、すぐに予備実験に入ることができました。予備実験にはかなりの時間をかけ、直接本実験には関係ないような実験プロトコールなども試してみました。瓢箪から駒が出たわけではないのですが、最初の半年間を自由に実験させてもらえたこともあり、当初の研究内容からかなり発展した現在の研究の基礎となる仮説を立てることができました。残りの半年で仮説の検証をする実験を始め、実りのある結果を得ることができ、現在はNIHのサポートを受けて研究が継続されています。

一方、私生活では、アクティブな留学生活を目指し、米国内旅行、特に国立・国定公園にでかけました。ただ米国の大自然を感じてみようというだけでなく、



自身の活動性というか社交性を高めようという目的を持っていました。もともと社交性が低く、あまり外出もしな

いたため、初めての国や土地ではあまり人と接することもなく、活動もかなり制限されていたのですが、これを機にそれを克服しようと考えたのでした。しかし、そういう意味では国立・国定公園というところは、働く人も訪れる人も他者を受け入れる方々が多く、かなり甘い課題に取り組んだのかもしれない。でも、その甘いハードル設定のために石は転がり始めました。何度も繰り返すうちに、現在ではとりあえずやってみようという気持ちが先にたつようになり、自分の行動範囲が広がりました。

とりとめもない話を書きましたが、何事もチャレンジすることは大事だと思います。いきなり高いハードルを越えようとするのではなく、ハードルを少し低く設定し、少しずつ高くするの、一つの方法かと思えます。また、緻密な計画をする必要もないかとは思いますが、目標に向かっての十分な準備は余裕をもちたしてくれそうです。最後に、素早い行動も大事ですが、試行錯誤するゆとりも長い先のことを考えると必要かなと思います。

# 背中を「見て、見せる」

鷺尾 惟子

大学院人間文化研究科 博士後期課程  
 社会生活環境学専攻 二回生

YUKIO  
 WASHIO

大学院生として奈良女の正門をくぐったのは、今から三年半前のことである。ある一つの民族と出会い、彼らの音楽を日本で紹介しようと思



研究発表兼ねてのピアノ実践

奏活動を行っているうちに様々な人々に出会い、その一本の縁の糸が研究の道へ、そして奈良女へと導いてくれたのだ。今ではその糸がさらに広がり、研究を通じてネットワークが広がっていくことと共に、研究にある「苦しみ」にさえ喜びを感じている毎日である。

さて、「私のチャレンジ」と題してふと思ったのが「背中を見て、見せる」という言葉である。この背中とは二つの意味を示す。一つは、「親父の背中を見て育つ」のように、自己の成長過程を推し量る意味である。入学した当初、何も分からず右往左往していた私を成長させてくれたのは、ひとえに先生方や周囲の院生仲間の「背中」であった。先生方の背中には、時に多忙ゆえの疲労感が見え隠れするものの、常に「情の深さ」と「人間臭さ」が漂い、それが励みとなっている。他方、猫背になりながら黙々とパソコンのキーを叩く院生仲間の背



ロバ車に揺られてフィールドワーク

中は、苦しいのは自分だけではないこと、努力の先の喜びを教えてください。そうした先生や院生仲間の背中を見て僅かながら私も成長し、そして今はまた後輩達へ、自分の行動的な背中と、努力する背中を「見せる」ようにしている。

背中のもう一つの意味は、「敵に背中を見せる」のように、「恥」である。研究を始めてから、私は敢えて自分の恥を人前で見せるようにしている。研究を行っていくには、なるべく早く、そして多く、恥をかいた方が解決策も早く見つけられるからだ。ゼミや学会で、他の院生が厳しい質問責めにあっているのを見たり、自分にそうした矢が降りかかってきたりする時には、誰しも気恥ずかしい思いがするものだ。しかし、そうした恥を見て、見せて、自分の研究がより良い方向へ導かれていくのだと思う。

今後いかに研究の上で「他人」の背中を多く「見て」、「自分」の背中を多く「見せられる」か。それが現在における私のチャレンジである。そしてさらに今、「自分」の背中を「見る」という、新たなチャレンジを行おうとしている。「他人」の背中ではなく、「自分」の背中を見ることは決して容易ではない。それは、ちょうど論文執筆で苦しみもがいている自分を、「なかなか頑張っているじゃないか」と余裕ありげに、そして客観的に見ている状態に近いかもしれない。あるいは、「深夜に書いたラブレターが翌朝読めない」のごとく、徹夜して書いた論文が翌朝冷静になって読めば、あまりにドラマティックな展開で、読むに耐えないといった状態に、より近いかもしれない。

いずれにせよ、自他の背中を「見て、見せる」。そのチャレンジを繰り返していくことで、自分が一歩一歩ステップアップしていくことが出来れば良いと痛感する。

# 化学とピアノの両立

KYOKO  
AOYAMA

青山 恭子

大学院人間文化研究所 博士前期課程  
化学専攻 二回生

比較的飽きっぽく、何をやってもあ

まり長続きしない私が、人生で十九年間続けていることがあります。それはピアノです。大学に入学して、ピアノのサークルがあることを知った私は迷わず入部することを決めました。それが私が今でも所属している「pianofete」というサークルです。サークルに入ってから新たな曲に挑戦したり、友達との連弾にも取り組んだりしていくうちにますますピアノを弾くことが好きになった私は、圧倒的に化学よりもピアノを優先で大学生活を送っていたと思います。

そのような生活に変化が訪れたのは、四回生になって研究室に配属された時でした。一日のほとんどを研究室で過ごすようになった私は、次第にピアノを弾くことがなくなっていました。

piano-feteでは毎年十二月に定期演奏会を行っています。この演奏会に関しては四回生以上の部員は自由参加なので、全く練習できていないということもあり私は最初出演を断念するつもりでいました。しかし、「ピアノを弾きたい！」という気持ちが次第に強くなっていったため、私は悩んだ挙句出演す

ることにしました。

正直なところ、研究とピアノの両立はできるだろうと最初は考えていました。

しかし、いざ出演を決めて練習に取り組もうとしても、自分の研究が思うように行かなくて練習に行けなくなってしまふということが多々ありました。また、ピアノの練習に行くために実験をあまりやらないと、研究が全く進まなくなってしまうという状態に陥りどうしたらよいのか本当に悩みました。

しかし、何とか実験の合間を見つけて練習に行き、本番を迎えました。本番の日、練習に時間を全くかけない状態で演奏しなくてはならないというプレッシャーから非常に緊張しました。しかし、ステージに立って演奏し始めた時に、本当に楽しくて「やっぱり私はピアノ弾くのが好きなんだな」と実感しました。また、研究とピアノの両立は楽なことではなかったけれど、二つの物事を同時に頑張ることが出来たということが更なる自信になったと思います。

大学院に入学してから、自分の中で研究で良い結果を出したいという気持ちが強くなるようになってきて、ます

ます実験で忙しい日々を送るようになりました。

それは、自分にとっても充実した時間であると感じたのと同時に、やはりピアノは続けていきたいという考えもあったので、練習は少しずつ続けていきました。

そのおかげか研究室に入ってからでも、定期演奏会や百年ピアノコンサート(毎年六月に開催)に計四回参加することが出来ました。

最後に、このように挑戦し続けられたのは、先生をはじめとする研究室のメンバーの応援と、いつも私を支えてくれた素晴らしいサークルのメンバーのおかげだと思います。これらの方々に感謝すると共に、残りの大学院生活でも化学とピアノのどちらも楽しんで過ごしていければと考えています。



2008年6月に開催された100年ピアノコンサートで出演した部員と一緒に

Character

# プラハ公演への挑戦

坂東 範子

生協環境学部 食物栄養学科 四回生

二〇〇八年三月十日、チェコ共和国の首都プラハにあるスメタナホールで奈良女子大学管弦楽団による演奏会が開かれました。これこそが私のチャレンジ、私たち奈良女オケのチャレンジです。

私は大学に入って初めてオーケストラに入り、チェコを始めました。もっとうまく弾きたい、もっといろいろな曲をやってみたいという思いで毎日練習に励んでいました。そうした奈良女オケは、私の学生生活の中心だったのです。

プラハ公演プロジェクトが立ち上がったから、楽器の練習はもちろん、演奏会の宣伝や資金集めなど演奏面以外の点でも大きな壁にぶち当たることが多々ありました。しかしもっとも大変だったことはオーケストラの「和」をつくることです。オーケストラは個人プレーでもあり団体プレーでもありません。みんなだまとまって「和」を作らなければ、楽しい音楽・感動できる音楽を作ることができません。どうすればより良い音楽を作ることができるのか。時には一人で、時にはみんなで考え話し合いました。「和」を作り上げるための方法はきつといくつもあって、でもその方法をなかなか見つけることができなかつたり、わかってはすぐ目に見えて改善されることではなかつたり： プラハ

公演成功までの道のりはものすごく遠く思え、毎日がチャレンジの日々でした。さまざまな出来事乗り越えて迎えたプラハへの出発日、プラハに着くと街並みや雰囲気：日本とは違う環境の中で今までにない空気を感しました。それによって、みんながそれぞれに何か良い変化を受けたことと思います。そうした中で迎えた本番は、ひとつにまとまった奈良女オケの音楽をたくさんの方々の観客の方々に届けることができました。演奏中は、聞こえてくる周りの音やお互いの視線がとても心地よく、みんなだひとつの音楽を作り上げているのだということに自分自身が感動し、そしてその感動を演奏者全員で共有しているというすばらしさを感じていました。現地のプロの奏者の方と共演することもでき、本当に刺激的な時間を過ごしました。



プラハ公演本番終了後にホールで撮影した集合写真です。

このプロジェクトを通してたくさんの方々に出会いました。みんなで一丸となり、プラハ公演を成功に導いたことを嬉しく思うと同時に、その一員と

NORIKO BANDO

なれたことを誇りに思っています。



現地で使われていた演奏会の宣伝用ポスターです。ホールの入り口に置いてあったものを撮影しました。

そして何より、私たち奈良女オケに「チャレンジするチャンス」を与えてくださった指揮者の先生に心から感謝しています。本当に良い経験をさせていただきました。このプロジェクトで体験した「チャレンジする姿勢」は、これからの私たちの人生をより豊かにしてくれるものだと思います。

私たち奈良女オケのチャレンジはまだ続きます。たくさんの人に楽しい音楽・感動できる音楽を届けたいという思いを胸に、現在は十二月の定期演奏会に向けて日々練習に励んでいます。これからも続く私たち奈良女子大学管弦楽団のチャレンジを是非聴きにきてください！



## 時を超えて

MIZUHO  
NAKATSUKASA

中司 みずほ

文学部教育学科 体育学専攻  
昭和六十三年度(平成元年二月)卒業  
奈良女子大学附属中等教育学校、教諭  
奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程 二回生

「リカレント研修制度」。職員会議でこの新しく導入される制度の説明を受けたのは、40歳を目前に控えたある日のことだった。リカレントとは、社会人の再教育を意味し、私の勤務する奈良女子大附属中等教育学校では、修士の学位及び専修免許取得のため、本人の希望に沿うよう、可能な限りの支援を行う体制を整えていた。

最初は、話を聞いても「私が大学院に行くなんて、まさか」と、真剣に考えてはいなかった。二十年前、学部の学生だった私は、自分と優秀な仲間を比べ、しつぽを巻き、逃げ去るように大学を卒業した。後に、附属に勤務するようになって、研究からは遠ざかり、大学の敷居はますます高くなっていった。そのような人間が、大学院に進むなど、全く想像もできなかった。しかし、リカレントの話聞いた時は、ちよつど節目の重なった時期だった。教員生活の折り返しという節目、六年間担任を受け持ちした生徒の卒業という節目、また、職場のスタッフが世代交代する節目、そして40歳という



昭和60年体育学専攻ダンス発表会

年齢の節目。様々な節目を迎えていることに気付いた瞬間、私の中で未知の事柄に挑戦したいという欲求が強く芽生えてきた。「大学院に進もう」そう決意するのに時間はかからなかった。

こうして、平成十九年四月、二十年前に学生証を頂き、20歳程年齢差のある学生達との大学院生活がスタートした。恩師は全て退職され、先生方の多くは同年代に近い。校舎もちよつど改修されたばかりで、当時の面影は殆ど残っていない。最初は、あまりの環境の変化に、気恥ずかしさもあり、戸惑いの毎日であった。しかし、心身共に柔軟なスポーツ科学専攻の学生達は、年齢差を軽々と乗り越え、仲間を迎え入れてくれた。日々の雑談や修論の悩み、果てには人生相談まで。時間を忘れて話をしていると、ふと二十年前の自分に戻っているような錯覚を覚えた。今も昔も、体育・

スポーツを学ぶ学生の気質は変わらない。居心地の良い場所に再び戻ってきた大学院一年目であった。では、何も変わらなかつたの



平成19年スポーツ科学教室球技大会

かというところ、決してそうではない。自分自身の知りたい、学びたい欲求は、学生時代とは比べものにならない。特に、働く中で長年蓄積されてきた、漠然とした疑問の固まりは、無自覚に大きくなっており、指導教員との荒っぽいカウンセリングのようなやりとりの中で、しだいにその姿を現してきた。自らの疑問の正体を明らかにすべく、没頭する時間はかけがえのないものであり、この時間を得ただけでも大学院にきて良かったと感じた。

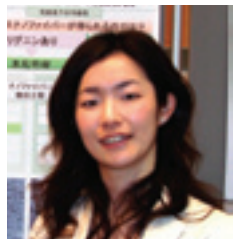
現在は、支援してくれる周りの人に感謝し、納得いく修士論文を書き上げようと、自らに念じて、大学院二年目の貴重な日々を過ごしている。

## 青春時代

小林(旧姓/岡久)

陽子

生涯環境学部 人間環境学科  
平成十二年卒業  
京都大学生存圏研究所  
日本学術振興会特別研究員PD



YOKO  
KOBAYASHI

私は今、奈良市から30kmほど離れた京都府宇治市にある大学で研究員として働いている。ここは大学の研究所が主体であり、皆、文字どおり昼夜を問わず研究に勤しんでおり、多くの素晴らしい研究成果が日々生み出されている。

私は、奈良女子大学卒業後に修士課程から入学して以来現在に至るまで、この大学で研究に関する知識や実験手法等、多くのことを学ばせていただいた。しかし、こうして過ごした年月が奈良女子大学であった時をすっかり超えてしまっただ今でも、やはり私にとつての大学生生活は、奈良女子大学で過ごした四年間であり、あの頃のことを思い出すと今でもとても温かい気持ちになれる。それは私の基礎の部分が、奈良女子大学で形作られたからといっても過言ではないだろう。

恥ずかしい話だが、奈良女子大学に入学した時の私は、特にやりたいことがあったわけではなく、「大学生になりたい」という理由だけで進学した、何とも情けない新入生であった。そんな私に衝撃を与えたのは、同級生たちの意識の高さであった。学部を問わず、同級生たちは皆、真剣に自分のやりたいことをやるべきことは何なのかを考え、生き生きとした表情で夢を語ってくれた。そこでようやく私も、自分の道を模索

するようになったのだ。これは非常に難しい作業で、私の場合、いまだに迷ってばかりなのだが、それでも考えるようになってから、自分の世界が広がったように感じている。

また、地方出身者の私は四年間を学生寮で過ごした。これは本当に素晴らしい経験であった。当時の学生寮は現在とは異なり、一部屋に四人ずつ配属され、お風呂は全寮生で共同、冬でも水しか出ない水場は10部屋ごとに共同で、冷暖房設備どころか網戸もないという実に歴史深い建物であった。この寮で、日々起こった些細なことに共に笑い、共に泣き、時には朝まで語り合った仲間たちとの出会いは何にも代えがたい私の宝物である。

そして最後に感謝してもしきれないのが、私を研究の道に導いてくださった恩師、疋田洋子先生との出会いである。

私は先生から、研究に対する姿勢、女性研究者としての生き方、人としての在り方、お味噌汁の作り方まで、非常に多くのことを教わった。どんなにお忙しくても、穏やかで周囲への気遣いを忘れることなく、熱心にご指導くださる先生は私の憧れである。先生と出会って以来の私は、先生のような人間になりたい、と思って生きている。そして、当時の住環境分野とは異なる

研究分野にいる現在も、卒業研究で先生から指導して頂いた「竹」を研究材料として用いている。



研究とは楽な道ではない。思うように進まず行き詰まり、帰り道に悔し涙を流す日もある。そんな時は今でも、母校奈良女子大学で出会った方々に助けていただく。退官後も大学関係のお仕事で大忙しにもかかわらず、疋田先生はいつでも心配してくださり、優しく励ましてくださる。また、今は住む場所も立場も異なる友人たちが、いつでも明るい言葉で勇気づけてくれるのだ。

在学生の皆さん、大学時代は青春と呼ぶにふさわしい時代です。ぜひこの時代を楽しみ、様々なものに触れ、経験し、出会いのすべてを大切にして過ごしてください！

# 佐保会だより

## 女性の魅力ある生き方を求めて

大学の南門から入り、北進すると今春完成した合宿所の隣に木々に囲まれた木造建物があります(写真)。これが佐保会館(同窓会会館)で、「国の登録有形文化財」です。一階は和室が主ですが二階は洋室の大ホールとなっており、映像、音響機器などの設備もあります。いつでも皆様のご来館・ご利用を歓迎致します。

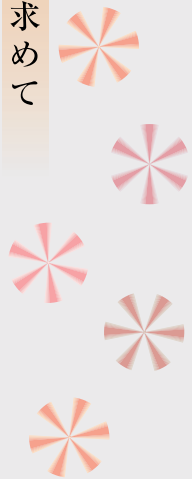
来年(平成二十一年五月)奈良女子大学は創立百周年を迎えます。そこで、社団法人佐保会(奈良女高師・奈良女子大学同窓会)でも母校創立百周年記念事業に協賛して「佐保会特別記念事業」を行うことにしました。

この事業には、次のものがあります。

### ☆『これからの時代にふさわしい女性の魅力ある生き方を求めて』

佐保会員には二十三歳から百歳を超えた幅広い年齢層の方がおられます。

全会員に今夏、アンケートをお願いして、高等教育を受けられた女性として、全国各地でどのように活躍しておられるか、その足跡をお尋ねしました。世界大戦、経済発展・バブル崩壊、急速なIT活用など、激動時代を生き抜いたそれぞれの体験を通して、これからの女性の魅力ある生き方を模索し、提案していきたいと思えます。



合宿所(左)と佐保会館(右)  
両建物の設計監理を担当したのは、  
一級建築士石井智子氏(佐保会員)です。

### ☆『母校に集い 共に語ろう』

母校創立百周年のイベントの一环として今秋から「母校に集い、共に語ろう」の会を、佐保会館において開催します。卒業生だけではなく、在学生にも参加していただき、社会生活体験者である卒業生と、自由に発想出来るフレッシュな在学生との活発な意見交換する「楽しい語り合いの場」となることを願っております。

その他に佐保会館では次のような「佐保塾」を開催しました。

○奈良女子大学創立百周年記念事業協賛講演会「光にまつわるこの百年」  
久米健次本学学長 (五月十七日)

○寺社めぐりその五 宇治平等院  
講話「平等院について」と見学  
宮城俊作生活環境学部教授  
(六月十四日)

○大震災被災者への  
七夕チャリティコンサート  
お話・梁瀬健氏、ソプラノ・岡田  
由美子氏、ピアノ・南木優子氏  
(七月十二日)

また、毎月定期的に次の佐保塾教室を開催しています。

●太極拳教室 火曜日  
森田 茂先生  
(日本武術太極拳連盟公認指導員)

●コーラス教室 第二木曜日  
土田景介先生(関西二期会会員)

●書道教室 第二金曜日  
川口登美子先生(日本書藝院無鑑  
査会員 昭和39家食卒)

●おりがみ教室 隔月第四木曜日  
堀井洋子先生(数教協折り紙サー  
クル代表、昭和26理数卒)

●受講料は一回千円ですが、学生は  
半額です。是非、気楽にご参加下さい。

詳細は本学配信のメールマガジンや、  
立看板などで案内をしています。

佐保会のホームページも充実させ  
ましたので、一度ご覧下さい。

(文責 浜中佐和子)



『岩波数学辞典』は1954年初版発刊の後、増改訂を重ね、2007年3月に第4版が刊行された。本文、公式、数表、和文と欧文の索引等を合わせ、全体で2000ページ強であり、第4版及び第3版の本文等を収録したCD-ROMが付いている。数学全分野から515の中項目が選定され、項目ごとに基礎から最先端までの重要かつ基本的な事項の体系的な説明と文献リストがある。入門的項目、数学史、応用面にも配慮されている。ちなみに中項目の配列は五十音順で、先頭は「アインシュタイン」、最後は「和算」である。

執筆者数は433。本学教員では、私小磯、谷口雅彦教授、森本徹教授（現在は名誉教授）が執筆している。私自身は、極小部分多様体及び関連項目を数名の専門家と共に担当した。その際、膨大な数の文献を調べて正確を期した。

数学の研究は日々世界中で進展している。数学辞典の次の改訂時にもまた、自分自身の研究成果を加筆することができるよう、私も日々研究に励んでいる。

（『岩波数学辞典』第4版、日本数学会編集、岩波書店、2007年、17,000円+税）

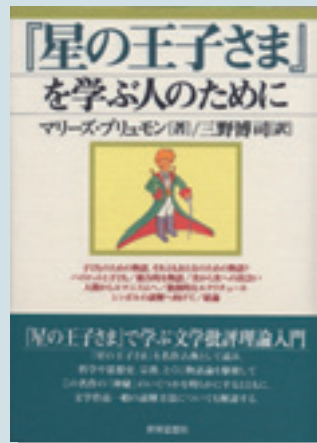
小磯 深幸

理学部  
数学科 微分幾何学講座 教授



MIYUKI  
KOISO

## 「岩波数学辞典」



『星の王子さま』って...むかし小さいときに読んだけど、物語が進んでいくと、どんどん神秘的になって、なんだかよくわからなくて...王子さまの絵はとてもかわいくて大好きだけど、これっていったい子どもの読む本なの？と考えているひとはたくさんいるでしょう。

この名作が1942年クリスマスのために子ども向けの本として書かれたのは事実としても、できあがったものは子どもの理解をはるかに超えた内容をもつ作品でした。本書は、『星の王子さま』を一級の文学作品として扱い、哲学や思想史、宗教、とくに物語論から分析の手がかりを借りて、神秘のいくつかを解説しようと試みたものです。さまざまな文学批評用語が「指標」の形で解説されています。

『星の王子さま』をより深く理解するための解説書であると同時に、文学批評理論の入門書としての性格もあわせもっています。文学とは何か...を考える第一歩といえるでしょう。

（『星の王子さま』を学ぶ人のために』マリズ・ブリュモン著、三野博司訳、世界思想社、2007年、1,600円+税）

## 「『星の王子さま』を学ぶ人のために」

三野 博司  
文学部 言語文化学科 教授



HIROSHI  
MINO

## 「アフリカ昆虫学への招待」

佐藤 宏明

理学部 准教授  
生物科学科 個体・集団生物学講座



HIROAKI SATO



アフリカの昆虫を研究する学徒を育むという意図のもと、昆虫に興味をもつ高校生から大学院生までを読者対象とし、編んだのが本書です。執筆者は、ケニアの首都ナイロビにある国際昆虫生理生態学センターに日本学術振興会によって10箇月から1年間派遣された研究者で、その成果が現地での生活を織り交ぜながら紹介されています。

フンコロガシ、ネムリユスリカ、サバクトビバッタ、ツエツエバエ、マメノメイガ、サンショウバエ、ハマダラガなど、アフリカならではの昆虫が登場します。これらの昆虫は人々を魅了し楽しませることもあれば、感染症を媒介し病人を死にいやったり、あるいは作物を荒らし農民を困らせたりします。アフリカは基礎・応用問わず昆虫学者を待ち望んでいます。アフリカは遙か彼方の異国の地であり、本書の意図の実現は無理としても、せめて「虫めづる姫君」(堤中納言物語)は育みたいと女子大に身を置く私は思うのです。

(「アフリカ昆虫学への招待」 日高敏隆監修、日本ICIPE協会編、京都大学学術出版会、2007年、3,000円+税)

## 「放課後子どもプラン」と学童保育

中山 徹

生活環境学部 准教授  
住環境学科



TORU NAKAYAMA



大阪学童保育連絡協議会と共同で「放課後子どもプラン」と学童保育」を出版しました。小学生の放課後が大きく変わりつつあります。保育に欠ける子どもたちは学童保育ですごし、安全な場所で遊びたい子どもたちは全児童対策を利用していました。前者は厚生労働省所管、後者は文部科学省所管でした。ところがこれらが放課後子どもプランとして統合されようとしています。いい形で統合・連携が進めば子どもたちにとってより望ましいものになりますが、どちらかを犠牲にする形で進みますと、子どもたちにとってはマイナスになります。残念ながら、いくつかの地域では、学童保育を廃止する形で統合が進み、子どもたちの放課後に深刻な影響を与えだしています。本書では、各地で進む放課後子どもプランを実際に調査した上で、子どもたちに対してどのような放課後を提供すべきかを提案しました。

(「放課後子どもプラン」と学童保育」 中山徹、大阪保育研究所、大阪学童保育連絡協議会編、自治体研究社、2007年、1,524円+税)

# 新任部局長紹介

①所属学部等・職名 ②所属学科・専攻分野



TETSUKO NOGUCHI  
野口 哲子

①理学部：教授  
理学部長  
②生物科学科  
細胞生物学

科学技術の分野では、第一線で活躍する女性の数が12%と特に不足しており、2006年の男女共同参画基本計画(第3次)では、2020年までに自然科学系全体で25%に増加させる数値目標が挙がっています。このように理工系の女性の一層の活躍が期待されている今、国立大学法人では日本に二つしかない女子大学の理学部として、責任の重さを感じています。そして、このような社会の期待を“女子大理学部への追い風”として舵取りすることが理学部長の任務の一つだと考えております。

学部入学から約40年間もお世話になった大学・理学部への思いは強いのですが、何分にも微力です。皆様方のご協力とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



MICHIYO NAKAJIMA  
中島 道男

①文学部：教授  
附属学校校長  
②人文社会科学  
理論社会学

本学の附属学校は、幼稚園、小学校、そして中高一貫の中等教育学校と、3校園あります。いずれも大学キャンパスとはやや離れていますので、普段はその存在は見えにくいかもしれませんが、歴史は非常に古く、近く創立百周年を迎える大学の歴史とほぼ重なります。平成16年に、それまでの文学部附属から大学附属に変更になって以降は、ますます、大学と附属との連携強化、附属学校園間の連携強化に努めております。中等が大学と連携しておこなっている文科省「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」研究、3校園合同で大学と連携しておこなっている文科省研究開発学校の取り組みなどが、その例です。

今後とも、非教員養成系大学である大学の附属としての使命・責任を自覚しながら、大学と附属の価値をともに高めるような活動に取り組んでいきたいと思っております。

# 新任教員紹介

①所属・職名 ②専攻分野 ③出身地・出身校(学部、学科別50音順)

HARUHIKO TERAO  
寺尾 治彦

①理学部 物理科学科 教授  
②素粒子論  
③大阪府  
大阪教育大学附属高等学校平野校舎  
京都大学理学部  
京都大学大学院理学研究科



奈良女子大に来て  
思うこと

金沢大学より理学部物理科学科に赴任致しました。専門分野は素粒子論、すなわち、より基本的な粒子とそれらを支配する法則について理論的に追求する学問です。宇宙はビックバンと呼ばれる大爆発から膨張し続けて現在の姿になっていると考えられていますが、素粒子物理はその初期の宇宙を探る鍵でもあります。金沢も古い町並みが残る良い所でしたが、奈良の落ち着いた雰囲気染まったこのキャンパスで宇宙と素粒子について思索する日々を楽しみたいと思います。

NAOYUKI NAGATA  
長田 直之

①生活環境学部 住環境学科 准教授  
②建築設計、住環境デザイン  
③愛知県  
愛知県立五条高等学校  
福井大学工学部建築学科



都市の生活を考える

僕の母は、ここ奈良で生まれ、育ちました。幼少の頃、休暇のたびに名古屋から近鉄特急でよく遊びに来ました。車窓の風景の変化、アスファルトで覆われていない自然の遊び場、ここで僕はたくさんを感じ、考えていたのだろうと思います。着任にあたり、考えること、一生懸命考えること、そのことが、住宅や都市、あるいは生活を豊かに作っていくことの基本にあることを、学生たちと共有したいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

SYU DAN

朱 丹

①大学院人間文化研究科 共生自然科学専攻 助教  
②高分子物理、化学  
③中国  
中国浙江大学化学 化工学院高分子学部  
中国南京大学化学 化工学院高分子学部  
奈良女子大学大学院人間文化研究科



悔いを残さずに  
笑顔で生きていきたい!

皆様こんにちは。4月1日をもって人間文化研究科の助教に着任しました朱丹(しゅだん)です。中国の南京師範大学の化学及び環境科学学院から来ました。高分子材料の物性と構造関連性問題に興味を持っています。丁度10年前、私は本学の大学院博士課程に学籍を得て生活環境学部の松生教授に師事し、奈良で4年間過ごしました。卒業して5年半後、再びこの大学に戻ってきて感無量です。今度こそ悔いを残さないよう、以前奈良にいた時よりもさらに情熱を傾けて、職務に頑張っていきたいと思っております。と共に、日本での毎日の生活も十分楽しんで送りたいと思っております。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

MICHIKO KATSUKAWA  
勝川 路子

①生活環境学部 食物栄養学科 助教  
②栄養生化学、食品機能学  
③東京都、京都府  
京都女子高等学校  
京都女子大学家政学部食物栄養学科  
京都女子大学大学院家政学研究科食物学専攻



奈良の魅力

定義によって出身地がころころ変わってしまう程度に引越しがあつたため、この頃は東京生まれの関西育ちと説明するようになりました。関西に長く住んでいるのですが、奈良女子大学に来るまで私にとって奈良は近くて遠い旅行先でした。最近では奈良独特の悠久を感じさせる雰囲気心地よく、これから奈良の色々な場所に行きたいと思うようになりました。修士課程修了後、大阪バイオサイエンス研究所に2年間勤めたけど経験年数は短いです。少しでもお役に立てよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

SHIN OKAZAKI  
岡崎 伸

①大学院人間文化研究科 共生自然科学専攻 助教  
②微生物学  
③宮城県  
宮城県立白石高等学校  
東北大学農学部  
東北大学大学院農学専攻



ユニークな環境

出身は草深い東北・宮城県です。これまで海外のラボを含め5つの研究室を渡り歩いてきましたが、キャンパス内を鹿が歩いている大学は初めてです。女子大学という不慣れた環境で戸惑うことも多い毎日ですが、古都・奈良の文化に刺激を受けつつ、学生と一緒に楽しくレベルの高い研究をして行きたいと考えております。

MASAKO OISHI  
大石 理子

①社会連携センター  
現代GP古都奈良における生活観光推進室 特任助教  
②動物生態学  
③奈良県  
奈良県立奈良高等学校  
奈良女子大学理学部生物学科  
奈良女子大学大学院人間文化研究科生物科学専攻  
奈良女子大学大学院人間文化研究科共生自然科学専攻



奈良に

この地に生まれ育った私は、これまで奈良市近郊の里山をフィールドとして、植物と植食性昆虫の相互作用に関する研究を行なって参りました。本年4月より、現代GP古都奈良における生活観光推進室に着任し、奈良の地域観光に携わることとなりました。奈良の自然景観の再評価と、それを組み込んだ新しい観光の設計に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 広部奨学金授与式について

平成20年度広部奨学金授与式が、7月4日(金)に事務局管理棟第二会議室で行われました。

同奨学金は、本学卒業生の故広部りう殿(福井県出身 奈良女子高等師範学校本科数物化学部1期生 大正2年3月卒業)のご遺志により寄附された資金をもって設けられた奨学金制度で、人物・学業ともに優秀な本学学生に授与するもので、今年度は次の8人に証書及び奨学金が井上副学長(教育・学生支援担当)から贈られました。

文 学 部	国際社会文化学科	3回生	東 郷 直 子
文 学 部	言語文化学科	3回生	佐 藤 裕 子
理 学 部	化 学 科	4回生	林 尚 佳
理 学 部	生物科学科	4回生	照屋由里子
生活環境学部	生活健康・衣環境学科	4回生	清 枝 希 帆
生活環境学部	人間環境学科	4回生	高 野 聡 子
人間文化研究科博士前期課程	生活文化学専攻	2回生	里 朋 美
人間文化研究科博士後期課程	共生自然科学専攻	2回生	青 木 美 鈴



## 授業料免除についてのお知らせ

平成21年度前期分授業料免除及び徴収猶予に関する出願書類の交付及び受付を下記のとおり予定していますので、出願を予定している人は忘れずに学生生活課で手続きを行ってください。

おって、詳細については1月下旬に掲示しますので注意してください。

出願書類交付：2月上旬～3月上旬  
出願書類受付：3月上旬～3月中旬

## 合宿所の新築について

本学のこれまでの合宿所は、明治43年に建てられた旧奈良女子高等師範学校当時の建物が合宿所として転用されたもので、築後百年近くが経過した老朽化の著しい建物でした。長年にわたり学生からの改築の要望があり、このたび、ようやく本学独自の予算による新築が決定され、昨年12月から旧合宿所の解体工事がはじまり、本年5月中旬に新しい合宿所が完成しました。

新合宿所は、鉄骨造り2階建、建築面積139.88㎡、延床面積201.25㎡、1階床面積99.64㎡、2階床面積101.61㎡の建物で、丈夫な基礎の設計のため1階の床レベルが地面より高く持ち上げられています。1階に和室1部屋(10畳)と台所、洗面所、洗濯コーナー、シャワー室、ロッカー室、トイレがあり、2階には、襖と障子で3部屋に区分できますが、大きな部屋としても利用できるよう設計された和室があります。



この建物は、本学大学院家政学研究科を修了された一級建築士の石井智子氏が、学生の課外活動を目的とする教育施設であることを基本的に伝統的な日本建築のプランを基調に設計されたもので、使い方も様々に工夫して、課外活動のいろいろな場面で活用していただくことが期待されます。

## 平成20年度就職活動支援行事カレンダー（後期分）

就職支援室では、就職を希望する学生に対して、各種の就職活動支援行事を企画・実施しています。就職マニュアル本だけでは得られない知識や情報等の収集の場として、積極的に参加・活用してください。行事開催の詳細な内容や実施日時・場所に変更があった場合などは、掲示でその都度通知されますので、図書館横の学生生活課の掲示板をいつも見るように心がけてください。

### 【就職支援対策講座】

\*企業・教員・公務員等に拘わらず、就職希望者全員が受講対象です。

月・日	曜日	就職活動支援行事(対策講座名)	時間	教室	対象
10月8日	水	ナビの正しい活用法 ～登録・利用時の注意(ナビ各社の説明)～	16:30～18:10	S218	3年生・M1
10月15日	水	就活の情報収集講座	①14:50～16:30 ②16:50～18:30	S218	3年生・M1
10月17日	金	金融対策特別講座 ～金融と資本市場について～	16:30～18:10	E109	学部学年不問
10月20日	月	筆記試験対策セミナー (出題傾向の分析・解説)	16:30～18:10	S218	3年生・M1
10月21日	火	金融対策特別講座 ～経済の基礎知識～	16:30～18:10	E109	学部学年不問
10月24日	金	筆記試験対策テスト (両日とも同じ)	16:30～18:10	G201	3年生・M1
10月30日	木		16:30～18:10	G201	
10月28日	火	金融対策特別講座 ～ライブプランニング～	16:30～18:10	E109	学部学年不問
11月10日	月	E Sの基本&履歴書の攻略	①14:50～16:30 ②16:50～18:30	S218	3年生・M1
11月14日	金	就活マナー講座 120min.	16:30～18:40	記念館 2F講堂	3年生・M1
11月19日	水	エントリーシート攻略セミナー I (E Sへの取組や採用側の要求にどう応えるか)	16:30～18:10	S218	3年生・M1
11月21日	金	エントリーシート対策テスト (両日とも同じ)	16:30～18:10	G201	3年生・M1
11月22日	土		10:30～12:10	G201	
12月3日	水	エントリーシート攻略セミナー II (対策テストのフォローセミナー)	16:30～18:10	S218	3年生・M1
12月6日	土	面接対策講座(総まとめ) ～就活最終チェック・面接ロールプレイング～	①10:00～12:40 ②13:30～16:10	S218	3年生・M1
12月12日	金	個別面接・グループディスカッション対策講座 (両日とも同じ)	16:30～19:40	G202	3年生・M1
12月13日	土		13:00～16:10	G203	
21年 1月22日	木	学内合同企業説明会の事前説明	①14:50～16:30 ②16:50～18:30	G201	3年生・M1
1月24日	土	学内合同企業説明会	13:00～17:00	記念館 2F講堂	3年生・M1
2月中旬		「関東地区就職希望者のための就職懇談会」 (同窓会 佐保会東京支部との共催)	13:00～16:00	佐保会 東京会館	3年生以上

### 【教員・公務員対策講座】

\*教員・公務員志望者は、併せて就職支援対策講座の受講が必要です。

月・日	就職活動支援行事名(講座等名称)	対象
12月頃に予定	教員試験合格者体験報告会	2年生以上
2月に実施予定 (4日間)	教員採用試験対策論文作成講座(有料)	3年生・M1
2月に実施予定	近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験説明会	3年生・M1

### 【インターンシップ関係】

月・日	曜日	就職活動支援行事名(対策講座名)	時間	場所	対象
10月4日	土	奈良県インターンシップ制度 実習発表会 (事後研修会)	13:00～18:00	奈良産業 大学	実習者

セミナーやガイダンスに授業で参加できなかった人は、キャリアサポートルームで、資料配付と共にビデオ撮影したものが視聴できます。後日の視聴できる時間があるときに、学生生活課就職係に申し出てください。

## 第46回近畿地区 国立大学体育大会の結果について

第46回近畿地区国立大学体育大会が8月4日(月)～27日(水)に開催され、熱戦が繰り広げられました。

本学は10種目に参加し、次の団体・個人が見事に入賞を果たしました。

### 〈団体〉

バレーボール(準優勝)、弓道(準優勝)、水泳(第4位)  
卓球(第4位)、バドミントン(第4位)、剣道(第4位)

### 〈個人〉

水泳 女子200m 個人メドレー 第2位 青木真衣(理・2)  
女子100m 自由形 第3位 浅田理恵(理・2)  
女子400m 自由形 第3位 青木真衣(理・2)

## 学生相談室から

### ●学生相談室は、あなたのマインドスペースです。

学業や進路の不安、日常生活で困ったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。

話を聞いてもらうだけでも、落ち着くこともあります。

相談室はあなたの話にじっくり耳を傾けます。

そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。

内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

### ●開室日及び開室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時

夏期休業期間中は月曜と木曜のみ開室

8月第3週と第4週、12月27日～1月5日、

入学試験日(前期・後期)は閉室します。

上記以外で閉室する場合は、構内掲示板や相談室前にその旨を掲示することにより、お知らせします。

学生相談室の場所は学生会館3階です。

TEL.0742-20-3925

Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp

### ●スタッフ

#### ■相談受付

金 文子(月曜日・水曜日・金曜日)

岩井 涼子(火曜日・木曜日)

#### ■カウンセラー

皆藤 靖子(臨床心理士)

竹村 百代(臨床心理士)

#### ■相談員

甲斐 健人(教員)

谷口 雅彦(教員)

藤平真紀子(教員)



奈良女子大学  
〒630-8506 奈良市北魚屋町  
TEL0742-20-3235

発行日:2008年10月15日  
発行:学生生活支援室  
印刷所:共同精版印刷株式会社